

## 7) 大きな脳底動脈瘤の術中破裂の手術経験

小林 啓志・岸田 興治 (信楽園病院)  
 皆川 信 (脳神経外科)

51才女性の大きな脳底動脈瘤の術中破裂を経験した。発作日、入院時の Hunt and Kosnik の Grade II で、脳底動脈瘤は、大きくて、前方に突出し、斜台に接していた。術中破裂と一時血流遮断の可能性を考え、意図的晩期手術とした。7日目に軽い脳血管攣縮の症状が出現したが、術前経過は順調であった。

16日目に、右頬骨弓を切除し、広い前頭側頭開頭術を行った。橋動脈を一部切離し、後床突起を削り、細い後交通動脈を、穿通枝を内頸動脈側に残して切離した。対側の脳底動脈・後大脳動脈分岐部を確認のため、頭蓋底側よりのぞきあげるようにしたが、大きい動脈瘤の陰になって見えなかった。そこで、脳底動脈を一時血流遮断後、動脈瘤頂部と斜台を剝離し、動脈瘤を後上方にひいた時に、動脈瘤が破裂した。waist clip で出血を少くし、その clip の長さが足りない分を考慮して、その中枢側に二本目の clip をかけて止血した。動脈瘤頸部に残った小さなふくらみに短い三本目の clip をかけ、二本目の clip に、補強クリップを追加した。血流遮断時間は9分であった。一時的に右動眼神経麻痺が出現したが、1か月後に消失し、Excellent で退院した。

意図的晩期手術、頬骨弓切除、後床突起切除、後交通動脈切離、および、脳底動脈の一時血流遮断を行い、大きな脳底動脈瘤の術中破裂に対処できた症例のビデオを供覧し、検討していただいた。

## 8) 窓付クリップが有用であった脳底動脈頂部動脈瘤の1例

土田 正・北沢 智二  
 山崎 英俊・関 泰弘 (新潟県立中央病院)  
 乳井 新 (脳神経外科)

脳底動脈頂部動脈瘤、ことに後上方向きのそれはクリッピングに難渋することが多い。脳底動脈が2mm左側に偏位し、ドームが右向きであったので左側からのpterional approach にて手術を行なったが、結局 P1 部を窓の中に入れたかたちで neck clipping を余儀なくされた1例を経験したので、ビデオにて報告する。

症例は57歳、女性。平成6年6月8日早朝、畑から帰ってきて頭痛を訴え、嘔吐してまもなく意識不明となり、即ちに当科に搬入された。昏迷状態 (JCS; 20)、CT にて SAH あり (Fisher3)、同日午後脳血管撮影施行。

脳底動脈頂部に径7mm、ドームを右後上方に向け、一部分葉状の動脈瘤が発見された。手術の難易度より待機手術とした。

患者は一時半昏睡までに悪化したが、徐々に回復、発症27日目に grade3 で開頭術を行なった。上述の理由で左側より pterional approach にて ICA の側方から動脈瘤に達した。種々のクリップを試みたが、通常のものでは頸部にかけることが難しく、杉田式窓付クリップ (#27) にて、P1 部を窓の中に入れるようにして neck clipping を行なった。幸い術後新たな神経症状は見られなかった。2週後脳血管撮影にて complete clipping を確認した。NPH 症状がはっきりしたため2か月後 V-P shunt を行ない、10月20日独歩退院した。

当科では1984年4月以来10年7ヶ月間に323例の破裂性脳動脈瘤を経験しているが、そのうち椎骨脳底動脈系のものは31例であった。うち18例 (58.0%) に直達手術を行なっている。脳底動脈頂部動脈瘤7例中4例に clipping 手術を行なっているが、窓付クリップを用いたのは本例のみであった。本例の手術術式についてビデオにて提示した。

## 9) 特異な臨床経過をたどった椎骨動脈後下小脳動脈分岐部動脈瘤の1例

吉田 陽一・足立 好司 (日本医科大学)  
 野手 洋治・中沢 省三 (脳神経外科)  
 小林 啓志 (信楽園病院)  
 (脳神経外科)

今回、われわれは比較的可成りな末梢性顔面神経麻痺を伴う破裂後下小脳動脈分岐部動脈瘤の1例を経験したので報告する。

症例は、52歳、男性、平成6年5月26日激しい頭痛で来院。頭部 CT にて、くも膜下出血を認めたため入院とした。脳血管撮影を施行したが、明らかな出血源を指摘できず、保存的に経過を見ることとした。7月14日、原因不明の右末梢性顔面神経麻痺出現。7月19日、トイレにて卒倒。CT 上、くも膜下出血をきたしていたため、脳血管撮影を再度施行したところ右椎骨動脈後下小脳動脈分岐部動脈瘤 (VA-PICA AN) を認めた。血管撮影上の動脈瘤の位置及び形状より右末梢性顔面神経麻痺の原因として動脈瘤による顔面神経の圧迫が考えられた。3D-CT Angiography を施行し脳血管撮影で得られた所見と比較検討した。

CT 上、橋右側に嚢状の動脈瘤があり、動脈瘤の後方より後下小脳動脈が分岐されている様子が 3D image